

Weekly Bulletin

2012-2013



RI会長
田中作次



奉仕を通じて平和を

静岡東ロータリークラブ

会長 / 戸塚敦雄 幹事 / 杉田至弘

事務局 / 静岡市葵区伝馬町9-3 芝田ビル3F TEL054-254-5611
例会場 / ホテルアソシア静岡 例会日 / 毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
戸塚敦雄

第 2607 回例会

平成 25 年 2 月 21 日 天候 晴

- 《司 会》 新聞桂子 君
- 《合 唱》 「それでこそロータリー」
- 《BGM》 トッカータとフーガ ニ長調 BWV565
J. S. バッハ作曲
ダニエル・コルゼンバ(オルガン)
- 《ゲスト》 フランス語教師・翻訳
フランソワ・デルバー様
- 《ピジター》 なし
- 《本日のお祝い》
お誕生日 結婚記念日
2月22日 佐橋 徹 君 2月25日 竹内 弘毅 君

《会長挨拶要旨》

皆さんもご存知の通り2月15日の現地時間9時15分に、強い閃光を放ち、煙の尾を曳きながら落下する物体がウラル山脈で観測されました。その物体はその後9時20分26秒に上空15kmから50kmで爆発し複数の破片に分裂して落下しました。

隕石が大気圏を超音速で通過し、更に大気との圧力に耐え切れず分裂するという2つの現象によって発生した衝撃波によって大きな被害が発生しました。

特に被害の大きかったチェリャビンスク周辺では4474棟の建物の窓ガラスやドアが吹き飛ぶ等の被害があり、20万平米の窓ガラスが損壊し、被害総額は約30億円だと見積もられています。又、衝撃波で割れたガラスの破片を浴びたり衝撃波で転んだりして、1158人の怪我人が発生し、この内289人が子供で運が悪く隕石の破片が直接当たった52歳の女性は頸椎を骨折してモスクワに搬送されたそうです。

地球には1年間に数千から1万個ほどの隕石が落下していると言われています。しかし、海に落下したり人が住んでいない地域に落下したりして見つからない

ことも多く、これまで世界では4万~5万個の隕石が確認されています。日本では、平安時代の861年に福岡県直方(のうがた)市に重さ0.5kgの隕石の落下が記録されているのが最古です。最近では1992年に島根県松江市に6.4kgの隕石が落下し民家の屋根を突き破って床下まで貫通しました。95年にも石川県能美市で400kgの隕石が車のボンネットを突き破り、96年には茨城県つくば市上空で爆発音がして、粉々になった破片が周辺に落ち見つかった破片の合計は23か所800gに達しました。

米国や日本では90年代から、地球に接近する小惑星を監視する仕組み作りが始まっています。NASAによると今後10年で直径1km以上の小惑星は90%発見できるようになるとされていますが、150m以下のものは発見が難しいそうです。

将来的には、こうした隕石の衝突を避けるために地球に近づいてくる小惑星に人工衛星をぶつけたり何らかの方法で小惑星に「帆」を付けたりしてコースを変えたりする構想もあるそうです。

なんだか、気の遠くなるようなお話ですが、今回の被害で亡くなった方がいなかった事は何よりでしたね。取敢えずは運を天の任せてという感じでは如何でしょうか？

《来賓卓話》

「日本の伝統・文化をもとめて」
フランス語教師・翻訳 フランソワ・デルバー氏



本日のテーマですが、日本の文化のひとつである「書」について、お話したいと思います。漢字圏でない国の人間が「書」を語るというのも違和感を覚える方もいらっしゃるかもしれませんが、フランス人の私にとって、無縁の筈だったそのものがいつの間にか自分の生活の一部までになってしまいました。私がなぜ「書」に興味を持つことになったか、どこに魅力を感じているのか、自分の経験からして「書」を

ス人の私にとって、無縁の筈だったそのものがいつの間にか自分の生活の一部までになってしまいました。私がなぜ「書」に興味を持つことになったか、どこに魅力を感じているのか、自分の経験からして「書」を

どんな風に考えているのかということについて、皆さんに少しでもお伝えできたらと思います。

1. 書との出会い：きっかけ

平成8年に文化活動というビザを得て日本へやってきましたが、その当時「書道」が目的ではありませんでした。実はフランスで高校一年の時からやっていた日本の伝統武道、特に空手を「本場で修業したい」との一念で矢も盾もたまらず来日したのです。日本で生活するうちに、日本の文化をもっと幅広く知りたいと思うようになり、文武両道という理想の人間像が働いていたかもしれませんが、何か別の表現を身に付けたいと考え始めました。そこで、日本に来る前に独学で勉強した日本語というのは漢字中心だったこと、日本に来てからも自分の日本語学習の中で一番興味深かったのはやはり漢字とその成り立ちだったので、それがきっかけとなり、「書道」の門を叩くことになりました。そして、その門をくぐると想像もできなかった3000年以上の歴史を持つ「書」の世界が目の前に広がり過去から今までの人間の多様な表現力にただ感動するばかりでした。

2. 書と武：共通点

武道出身の者なので、武と同じ姿勢で書に臨みました。そして、武道の経験を踏まえて書を考えてみると意外に共通点が多いことに気がつきました。

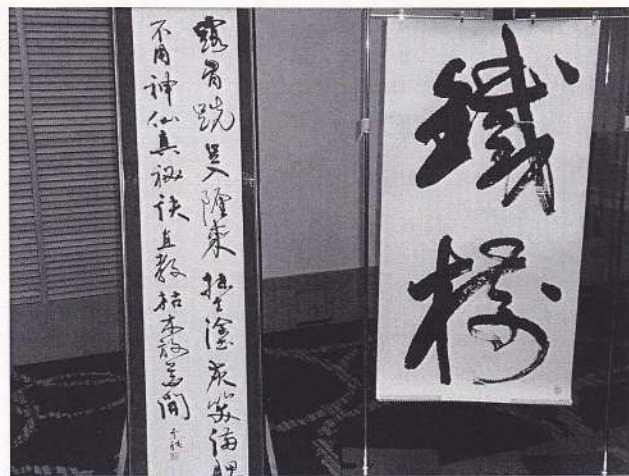
- ・運動＝体で覚える(馴染ませる・身につける・繰り返す作業)
- ・静と動＝武：ゼロ・ノーモーションから爆発的な力を発揮(自分の精神をコントロールした上で)
書：白・無色の空間から瞬間的に「形」を成す
- ・一本勝負＝やり直しがきかない、一回限り、
「今」を生きる、「今」に集中する
- ・古典を重視＝型と臨
武：型の中で自分を見つめる
自分を作り上げていく上で、欠かせないもの
書：臨書する中で技法を覚える、真似する、
目を養う、自分の成長の糧

3. 私にとって「書」とは

- ・線の芸術＝線の「質」に拘ること
気満、充実した線をめざしています
- ・臨書と創作＝呼吸(吸うことと吐くこと)
創作＝古典を吸収、消化した上で、今を生きる自分
その命を線に吹き込む、吐くことが大事
作品作り＝自分の気持ちをピークに持っていく過程
(下準備)、過程あってこそその出来(噛み合わせ)
下準備作業が楽しい。

自分の感性を高める＋最低限の条件で、自分を最大限に表現できる「行」と思っております。書く時の姿勢を大事で、作品自体には拘りを持っていません。武は自分の背骨だとすれば、書は自分の血だと思えます。今後も文武両方続けていきたいと思えます。

4. 作品(左：「十牛図」、右：「鉄樹」)



《第281くらく会報告》

平成25年2月19日(火) 於：静岡倶楽部

出席5名、投句2名

兼題「春遅し」「麦踏」他当季雑詠

第1席 春遅し融雪の道手をつなぐ 渡辺陽夫

第2席 春遅し水に映る梅一輪 永島英器

第3席 4名6句

《スマイル報告》

古賀 昭彦 君 本日はフランソワさんのお話をお聞きし、日本人としてもう一度自国の文化を考える事ができました。ありがとうございました。

戸塚 敦雄 君 豪雪の中、新潟県南魚沼市の酒蔵を3軒見学して来ました。「八海山」「緑川」「鶴齢(カクレイ)」それぞれ特徴があって勉強になりました。スマイル致します。

佐橋 徹 君 誕生日の御祝いを戴きました。ありがとうございました。年相応に所々サビついて来ましたが、もう少し使えそうです。

永島 英器 君 18日に50歳の誕生日をむかえました。半年前からウォーキングを始めたところ、中性脂肪が240から110に下がりました。健康に留意して生活したいと思えます。

竹内 弘毅 君 結婚記念日のお花ありがとうございました。多くの人に支えられ、そして子供達にたしなめられ、結婚29周年を迎えることができました。感謝の気持ちを一杯こめて、スマイルさせていただきます。

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
2/21	56(54)	44	10	-	-	-
2/14	56(52)	41	11	-	-	-
2/7	56(54)	42	12	8	4	92.59%